

絵本が育てる心の根っこ

～絵本誕生の現場から～

フリーランスの編集者として絵本を中心に活動し、これまでに300冊以上の本の誕生に関わってきた松田素子さんをお迎えして、絵本の魅力を学びます。

日時★2019年1月27日(日)13:30～15:30

場所★山口県立山口図書館 2F 第1研修室

講師★松田素子

対象★子どもの読書ボランティア

子どもの読書に関心のある大人等

※大人対象の勉強会です。お子様の入室はお断りします

定員★40名(要予約・先着順)

資料費★500円

申込先★090-3636-2617(山口)、090-2008-9467(山本)
yamaf123@c-able.ne.jp (山口)

松田素子 1955年、周南市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、児童図書出版の偕成社に入社。絵本編集部を経た後、雑誌『月刊MOE』の創刊メンバーとなり、同誌の編集長を務めた後1989年に退社。その後はフリーランスとして絵本を中心に活動。これまでに約300冊以上の本の誕生にかかわってきた。各地でのワークショップを通して、新人絵本作家の育成にもつとめており、なかやみわ、長谷川義史、はたこうしろうなど、数多くの人気作家の第一作目の作品の誕生に編集者として立ち会い、詩人まど・みちおの画集や絵本も手がけた。また翻訳者、著者としても活動しており、サイエンスの分野における企画および著作もある。

絵本が育てる心の根っこ

～絵本誕生の現場から～

フリーランスの編集者として絵本を中心に活動し、これまでに300冊以上の本の誕生に関わってきた松田素子さんをお迎えして、絵本の魅力を学びます。

2019 **1/27日**
13:30～15:30

山口県立山口図書館
2F 第1研修室
山口市後河原150-1 TEL 083-924-2111



松田素子さん

松田素子さん
編集者。1955年、周南市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、児童図書出版の偕成社に入社。絵本編集部を経た後、雑誌『月刊MOE』の創刊メンバーとなり、同誌の編集長を務めた後1989年に退社。その後はフリーランスとして絵本を中心に活動。これまでに約300冊以上の本の誕生にかかわってきた。各地でのワークショップを通して、新人絵本作家の育成にもつとめており、なかやみわ、長谷川義史、はたこうしろうなど、数多くの人気作家の第一作目の作品の誕生に編集者として立ち会い、詩人まど・みちおの画集や絵本も手がけた。また翻訳者、著者としても活動しており、サイエンスの分野における企画および著作もある。

対 象★子どもの読書ボランティア、子どもの読書に関心のある大人等
※大人対象の勉強会です。お子様の入室はお断りします。

定 員★40名(要申込・申込順)

資料代★500円

申込先★こどもと本ジョイントネット21・山口 山口ベースキャンプ 090-3636-2617(山口)、090-2008-9467(山本)

主 催★こどもと本ジョイントネット21・山口

後 援★山口市教育委員会、山口県子ども文庫連絡会

絵本作家・鳥の巣研究家 鈴木まもるさん

かこさとしさんの絵本と鳥の巣のふしぎ

絵本作家かこさとしさんが、2018年5月2日に92歳で逝去されました。亡くなる直前まで手がけていた最後の絵本が『みずとはなんじゃ?』(小峰書店)でした。かこさんからその完成を託された絵を描いたのは、鳥の巣研究でも有名な絵本作家の鈴木まもるさん。鈴木さんの持参された鳥の巣の実物や映像などを見ながら、知識や情報が氾濫した今の世の中をどう生きるか、といったことを鳥の巣を通して考え、鈴木さんの絵本づくりへの思いを伺います。

2019. **2.10** (日)13:00～15:00

パルトピア山口2F 第1会議室
山口市神田町1-80 TEL 083-923-6088

みずとはなんじゃ?

かこさとし・作
鈴木まもる・絵



対 象：子どもの読書ボランティア、子どもの読書に関心のある大人等
※大人対象の勉強会です。お子様の入室はお断りします。
定 員：30名(要予約・先着順)
参加費：500円(当日1,000円)
090-3636-2617(山口)、yamaf123@c-able.ne.jp ※お断りします。
090-2008-9467(山本)

【鈴木まもる】画家・絵本作家・鳥の巣研究家。1952年 東京生まれ。東京藝術大学工芸科中退。1980年に絵本『ぼくの大きな木』(偕成社・鶴見正夫/文)で絵本作家としてデビュー。1995年『黒ねこサンゴロウ』シリーズ(竹下文子/文 偕成社)で赤い鳥さし絵賞、2006年『ぼくの鳥の巣日記』(偕成社)で講談社出版文化賞絵本賞、2014年『ニワシロのひみつ～庭師鳥は芸術家』(岩崎書店)で産経児童出版文化賞JR賞を受賞。絵本・童話のイラストは、これまでに150冊近い。その他、教科書、ポスター、カレンダーなどの仕事がある。1986年に伊豆半島に転居後、野山でみつけた鳥の巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で鳥の研究と収集を始める。以来、収集した鳥の巣はおよそ230種、550個以上。1998年から全国各地で鳥の巣と絵画の展覧会を開催している。

主催★こどもと本ジョイントネット21・山口
後援★山口市教育委員会、山口県子ども文庫連絡会

絵本作家・鳥の巣研究家 鈴木まもるさん

かこさとしさんの絵本と鳥の巣のふしぎ

絵本作家かこさとしさんが、2018年5月2日に92歳で逝去されました。亡くなる直前まで手がけていた最後の絵本が『みずとはなんじゃ?』(小峰書店)でした。

かこさんからその完成を託され絵を描いたのは、鳥の巣研究でも有名な絵本作家の鈴木まもるさん。鈴木さんの持参された鳥の巣の実物や映像などを見ながら、知識や情報が氾濫した今の世の中をどう生きるか、といったことを鳥の巣を通して考え、鈴木さんの絵本づくりへの思いを伺います。

日時★2019年2月10日(日)13:00～15:00

場所★パルトピア山口 2F 第1会議室

山口市神田町1-80 TEL 083-923-6088

講師★鈴木まもる

対象★子どもの読書ボランティア、子どもの読書に関心のある大人等

※大人対象の勉強会です。お子様の入室はお断りします。

定員★30名(要予約・先着順)

参加費★500円(当日1,000円)

申込先★090-3636-2617(山口)、090-2008-9467(山本)
yamaf123@c-able.ne.jp (山口)

鈴木まもる 東京藝術大学工芸科中退。1980年に絵本『ぼくの大きな木』(鶴見正夫/文 偕成社)で絵本作家デビュー。1995年『黒ねこサンゴロウ』シリーズ(竹下文子/文 偕成社)で赤い鳥さし絵賞、2006年『ぼくの鳥の巣日記』(偕成社)で講談社出版文化賞絵本賞、2014年『ニワシロのひみつ～庭師鳥は芸術家』(岩崎書店)で産経児童出版文化賞JR賞を受賞。絵本・童話のイラストは、これまでに150冊近い。その他、教科書、ポスター、カレンダーなどの仕事がある。1986年に伊豆半島に転居後、野山でみつけた鳥の巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で鳥の研究と収集を始める。以来、収集した鳥の巣は約230種、550個以上。1998年から全国各地で鳥の巣と絵画の展覧会を開催。